

成功する営業DXの取り組み方を専門家が解説／産経主催セミナー

広告

【無料】メトロポリターナ主催のマナーセミナー申込受付中！

広告

例年より暑い夏 今の時期から熱中症予防を 防災学術連携体

2023/6/12 14:47

ライフ | 科学

ツイート ツイート 反応 反応 f LINE B! 共有



今年の夏は例年より高温傾向になるという

日本気象学会や日本災害医学会など防災に関連する62団体で作る「防災学術連携体」は12日、今年の夏は例年より高温傾向になるため、猛暑や豪雨に備えた対策を早めに講じるよう呼びかけた。

気象庁の見通しによると、6月は北・東日本、7～8月は東日西日本と沖縄・奄美で高温傾向となりやすい。

日本医科大の横堀将司教授は、体が暑さに慣れる「暑熱順化」には、数週間程度かかるため、本格的な暑さを迎える前の今の時期から熱中症予防に取り組む必要があると呼びかけた。体が慣れていない時期に急に外気温が高くなると、熱中症の発症も増加する。今年5月に熱中症で救急搬送された人数は昨年同時期を大きく超えているという。

横堀教授は「熱中症は予防できる病気だ。今、暑くなる前に体調を整えてほしい」と話した。高血圧で利尿薬を服用していたり、糖尿病で尿の量が多かったりなど、

談して対策を練ることが大事だとした。

また、高齢者の屋内での発症が多いことから、「室温をこまめに確認し、ためらわずにエアコンを使用してほしい」と話した。高齢者や乳幼児、一人暮らしの人など「熱中症弱者」については、周囲の見守りが重要という。

また、降水量については7月を中心に全国的に平年より多い見通しで、梅雨後半の大雨が降りやすい時期や、秋にかけての台風シーズンに向けてしっかり備えるよう警鐘を鳴らした。

防災学術連携体事務局長の田村和夫氏は「自分たちの安全は自分たちで守ることが第一の基本」と話し、地域のハザードマップを確認し、安全な避難経路を家族で相談するなど日ごろから準備するよう促した。

Recommended by  Outbrain

世界一給料が高い町工場を作る。社長と社員の「普段の会…

ビズヒント | PR

定年後のおひとりさま、身元保証の対策とは？

一般社団法人 終活協議会 | PR

中条あやみさん結婚 「温かい家庭築きたい」

広末涼子さん不倫認め謝罪、無期限謹慎に「女優業を汚し…

採用面接で本音を見極めるには「〇〇〇を与える」に限る

いま、ヒートポンプが「熱い」 パナソニックが環境配慮で欧

日本製「リクライニングチェア」つま先までリラックス

園遊会や選挙演説にも使われる高級ビニール傘

